

令和6年度 学校評価報告

次代を拓く ”ONO Progress” ～人間力を育む9つの力～

重点事項:学力の向上による進路支援

努力事項	No	具体的取り組み	具体的な行事等	自 己 評 価														主担当
				評 価 （A:よく出来た B:出来た C:あまり出来なかった D:出来なかった） ※ 9つの力の評価を空白の欄に記入してください。														
				探究心	レジリエンス	課題解決力	論理力	突破力	発信力	多様性	共創力	批判的思考力	総合評価	成 果	課 題	改 善 策 等		
授業力の向上 教員が自らの授業力を向上させるために日々研鑽に努め、生徒が満足できる魅力ある授業を行い、生徒の学力向上を図る。	1	教科担当者が更なる連携を図り、効果的な授業を実施し、適切な試験問題作成とその結果分析によって生徒の実態把握を行い、授業力の向上に努める。	公開授業、研究授業、教科会	B	B	B					A	A	B	・一部の授業で習熟度別授業を取り入れている。生徒の学力に対応した授業を実施した。 ・7月と12月に学年ごとに生活実態及び授業に関するアンケートを取り、学年毎の集計結果を共有した。	・学力差の大きい生徒集団であるため、効果的な教材や授業内容、試験問題などについて、より一層の工夫が必要である。 ・ICT機器の効果的な活用方法の理解と実践を推進する。	・教科や学年の枠をこえて学校全体で問題意識を共有する場を設ける。 ・生徒の動向に注視し、各経担当者と進路指導部との連携を密にしながら、進路に対する目標と意識を高く持ち、学習に積極的に取り組む姿勢を養う。	教務	
	2	公開授業や研究授業をはじめ、授業評価を通して授業改善に努める。	教科会、各種研修	A	B	B					A	A	A	・6月、9月に公開授業週間を行った。毎回、研究授業を設定して、教科の枠を超えての情報交換を行った。10月に保健体育、11月には芸術（美術・書道）の研究授業を行った。	・研究授業の参加者も同じ教科内での参加が大半である。 ・時間割の中に組まれている教科会議が教育課程の検討などの審議事項に使われていて、各教科内での研修として活用していることが少ない。	・公開授業週間だけでなく、授業の公開や情報交換等を積極的に行う。 ・教科会議の時間を研修等の時間として活用する。	教務	
生徒の学力向上 生徒が授業に主体的に参加して、学ぶことの楽しさを体感し、自らの潜在的な力を向上させる。	3	生徒一人ひとりの進路実現を目指して、より適切な教育課程の編成を行う。	教育課程委員会、教科会	A	A	A					A	A	A	・新学習指導要領に基づいたカリキュラムの見直しを行った。 ・クラス数減や職員数減に伴い複雑になったカリキュラムの見直しを行った。	・科学探究科、ビジネス探究科は専門科目の履修制限もあり、特色ある教育活動にも取り組んでいる。その中で大学入学共通テストにおいては教科数が増えた。このことにどのように対応していくかが課題である。 ・非常勤講師の多さ（他校との兼任や本務校が他校を含む）、同時展開授業や使用教室の制限など、制約条件がかなり多い中で時間割変更の依頼も多い。	・学校或いは各学科の方向性を学校全体で共有することが重要である。その中で「出来る事」と「出来ない事」あるいは「取り組むべき事」と「そうで無い事」を整理する。	教務	
	4	朝の学習や補習、面談を通して、学力不振者への対応と学力上位者のさらなる学力の伸長を図る。	朝学の継続実施			A	A						A	・曜日ごとに担当教科を配当し、基礎基本の定着を図る時間とした。3学期まで継続して取り組むことができ、基礎力向上の一助となった。	・開始時刻に教室に入る生徒が見られた。	・担任や学年団が朝の教室の様子を巡回したり、個々の生徒の生活状況を面談等で把握し改善を促す。	3学年	
			定期考査前の指名補習			A	B						A	・「定期考査前の指名補習」は、各教科担当者が学力不振者に対して具体的に指示を出し、学習状況を確認しながら取り組ませることができた。	・定期考査前の限られた期間では、十分な対応ができていく。	・学力不振者に対しては、不振の原因を探りつつ、定期考査前の単発的な指導に終わらないよう、日常的に継続した指導を行う。		
			進路希望別放課後セミナー開催（6月以降）			A	A	A					A	・総体後から平日の放課後補習、長期休業中の夏季セミナーを生徒が希望に応じて選択できるように開講し、基本事項の定着と応用実践力の育成に向けて学習意欲を高めることができた。	・補習の狙いを明確にし、生徒とそれを共有する。 ・開講講座の種類と内容を精選する。	・目標を明確にして効果的な教材を準備する。 ・生徒の実態に合った講座を開講する。		
			朝学の継続実施			B	A						B	・各教科で短時間で取り組める教材を用意し、基本的事項の習得、確認に努めた。10分間ではあるが継続的に実施することで、効果的なものになった。	・全員の開始時刻の徹底	・全員が開始時刻をしっかりと守れるように指導する。	2学年	
			定期考査前の指名補習			A	A						A	・学習に苦手意識を持つ生徒に対して、基礎基本に焦点を絞って指導した。指導を受けた生徒の多くは考査での得点向上が見られた。	個別指導が効果的ではあるが、人的・時間的な限度がある。	・学習につまづいている生徒の早期発見と、早めの指導をする。		
			夏季セミナー（夏季休業中）			A	A	A					A	夏季セミナーでは授業を補うような形で講座を開き、生徒の学力向上に努めた。	講座を受け持つ教員の確保やムラができた。	・教科内、教科間での連携をより強化する。		
			朝学の実施			A	B						B	・定期的に面談を実施するとともに、随時生徒の相談に乗り、きめ細かく生徒に学習のアドバイスを行った。 ・スコラ手帳を活用して学習状況を俯瞰して見られるよう工夫した。 ・指名補習については定期考査における基本ポ	・朝学の開始時刻に対する意識付け	・朝学だけでなく家庭学習等についても自主的に行えるよう意識付けに努める。		
定期考査前の指名補習			A	A						A								

[illegible]

	7	卒業後の進路と類型の選択の結びつきを強め、ビジネスに関する基礎的な知識の定着とそれをベースにした応用力を身につける。専門科目の学びに対する積極的な姿勢とビジネス実践力の向上を図るために、きめ細かな指導を行う。また、多くの入試形態に対応できるよう全商主催検定1級の取得率の向上に努めるとともに、社会との結びつきを強めた実践的課題研究活動に取り組む。		A	A	A		B					A	A	・学科改変後2回目の卒業生となる。専門学科における専門性の理解や類型選択を通して自己の興味・関心の在り様を深めた学びの中で、各自が目指す進路を見極め、こだわりを持った進路の実現への取り組みができたと感じる。生徒各自が、主体的に自分の未来を見つめ、適性や特技を生かして、様々な入試方法で進路の実現に臨み、結果を出している。。	・新教育課程および入試科目の変更、また検定の改廃に対応した教育カリキュラムについて教科および教育課程委員会検討し、選択科目等の配置を行った。	・文科省が定める新教育課程上の学科科目だけでなく、学校設定科目および選択科目の適切な設置による教育カリキュラムの見直しを進めることができた。	ビジネス探究科
SSH事業の推進 SSH指定校として、5年間を見据えた計画のもとで、科学技術系人材の育成事業の充実をはかる。	8	I期SSH指定5年間の取り組みの成果を基盤に事業の発展に取り組み、科学技術系人材の育成に関する新機軸となる取組を模索し、より充実した取組を展開する。高大連携や理数系女子人材の育成の推進なども視野に入れ、事業を展開する。	SSH運営指導委員会 中間評価など	A	A	A		B					B	A	・相互評価を新たに導入した。科学探究科の理数探究（2年次）において試行的に実施し、研究計画の作成や中間発表時の振り返りに効果があることが分かった。相互評価の具体的な実施方法を理解することができた。 ・生徒の科学的資質能力の伸長を測定するためにメタ認知ルーブリックを活用することができている。	・相互評価には多くの生徒の活動があり、全体としてまとまった授業時間が必要になる。相互評価を計画的に位置づけ、指導計画を立てることが必要である。配布物も多く、煩雑な印象も受ける。 ・使用しているメタ認知ルーブリックは探究活動に関するものであるため、他の授業でも同様の仕組みで生徒の姿を把握するためには同様のルーブリックを作成する必要がある。	・相互評価に使用するプリントや相互評価の各段階について精査し、より簡便で効果が期待できる相互評価のやり方を研究する。 ・探究基礎Ⅰ、探究基礎Ⅱ、国際探究といった理数科専門科目などについても、新規のルーブリックを開発する。	SSH探究推進
生徒が自己の未来をデザインできる力を育てる キャリア教育の充実 生徒が自身の適性を見極め、自らの意思と責任で主体的に進路を選択できる能力や態度を育成する。	9	進路HRや進路行事を通して、社会の実態や働く意義を学び、職業観を育てる。さらに自身の適性を見極め、将来の社会貢献のあり方を考え、キャリアデザインを実践する。それらを実現するための方策を考え、それらを実行しようとする態度を育てる。	職業講演会（1年9月） 大学出張講義（2年6月） インターンシップ（2年8月）	A			A		B				A		・職業講演会（1年）と大学出張講義（2年）の進路行事を通して、各生徒が社会や職業、さらには大学での学問領域やその奥深さを知る機会となり、興味の幅を広げた生徒も多い。それぞれの進路意識の高揚に役立った。 ・1年生の職業講演会では、新しい講師の開拓に努め、学年との協力でマンネリ化しないように心がけなければならない。 ・2年生の大学出張講義では、国公立大学に依頼することが多いが、ビジネス探究科の生徒から人気がある関関同立大へも講師依頼をしてほしいと学年から要望があったが、日程の関係で叶わなかった。 ・意義のある行事であることに議論の余地はないが、2年生の8月実施ということで、部活動との関係が難しい場面があった。さらに8月は、進路行事（大学訪問等）以外にも数多くの行事が予定されているため、希望はあっても参加を見送った生徒がいるのではないかと考えられる。	・1年生の職業講演会では、新しい講師の開拓に努め、学年との協力でマンネリ化しないように心がけなければならない。 ・2年生の大学出張講義では、国公立大学に依頼することが多いが、ビジネス探究科の生徒から人気がある関関同立大へも講師依頼をしてほしいと学年から要望があったが、日程の関係で叶わなかった。 ・意義のある行事であることに議論の余地はないが、2年生の8月実施ということで、部活動との関係が難しい場面があった。さらに8月は、進路行事（大学訪問等）以外にも数多くの行事が予定されているため、希望はあっても参加を見送った生徒がいるのではないかと考えられる。	・職業講演会、大学出張講義共に、講師の方の一方通行の講義になってしまいがちなので、もっとインタラクティブに行う工夫が必要だと考える。できる限り事前に講演内容を伺って、生徒に「予習」をさせて、当日には質疑応答をもっと活発にするよう考えたい。 ・インターンシップについては、2年で就職（公務員を含む）を考えている生徒には原則勤めていきたいが、進学希望の生徒は大学訪問等の他の学校外行事への参加を奨励する。	進路指導

重点事項：豊かな人間性を持った生徒の育成

努力事項	No	具体的取り組み	具体的な行事等	自 己 評 価													主担当	
				評 価 （A:よく出来た B:出来た C:あまり出来なかった D:出来なかった） ※網掛け箇所記入する。														
				探究心	レジス スエン	課題解決力	情報力	突破力	発信力	多 様 性	共 創 力	批判 的 思 考	総合評価	成 果	課 題	改 善 策 等		
10	生活3原則を徹底することで生徒の基本的な生活習慣の確立に努める。	風紀委員会					B		B		B	・8時10分の朝学開始の時間に着席できていない生徒が増加しており、評議委員会等で呼びかけたが改善ははられなかった。 ・挨拶運動を校内外で実施した。	・遅刻者の状況に応じた指導が必要で、一律に指導することは有効ではない。生徒指導部専任の教員と学年・担任との情報交換が不可欠である。 ・教師も挨拶を意識し、生活三原則の徹底をする必要がある。	・遅刻の多い生徒を学年と協力して個別指導を行う。また、不登校傾向の生徒については、家庭と医療機関との連携も必要である。 ・SHRや授業などで色々な教師からマナー向上や生活三原則についての話をする。	生徒指導			
	11	部活動の活性化を推進しつつ、効率的な練習計画によって学習との両立を図る。	評議委員会 マナーアップ運動	A			B		B		A		B	・多くの部活動が近畿大会や全国大会に出場し、成果を上げることができた。	・生徒は学習と部活動の両立の難しさを感じており、時間の使い方に課題がある。 ・教員側の文武両道に対する意識が低下してきている。	・部顧問・担任・教科担当の連携を強化し、学習時間を確保できるよう努める。 ・規律ある行動が取れる生徒の育成が望まれる。	生徒指導	
12	学校行事を通して、学校・学年やクラスへの帰属意識を高めるとともに、リーダーを育成する。	部活動	B	A	B								B	・全校生の90%以上が部活動に所属している。学習と部活動を両立し、自主的な活動ができるようになっている。	・運動部の部員数が減少傾向にあり、途中退部する生徒が以前より増加した。 ・より充実した活動となるように活動時間や内容の改善に努める必要があるのではないかな。	・生徒の自主性だけではなく、各部顧問がより積極的に部員と関わることで部活動を活性化させていく。	生徒指導	
		新入生歓迎遠足		A				A		A		A	・3年生として各クラスが創意工夫をこらし、新入生の緊張を解きほぐすための楽しい時間を創り出すことができた。					3 学年
		球技大会		A			A	A		A		A	・体育委員を中心に、クラスの個性を発揮して進めることができた。互いに協力し合い、各試合を存分に楽しむことができた。	・3年生ではクラスや学年で取り組む行事が最後になっていくが、連帯を感じることができる機会を大切にしていく。	・生徒たちが自主性やリーダーシップを発揮して活動することができるよう、限られた時間を計画的に運用するよう支援する。			
		体育大会		A			A			A		A	・応援リーダーを中心に、各人が責任感と協調性を持って取り組み、最終学年として澁刺とした演技を行った。学年の団結も一層深まった。					
		新入生歓迎遠足		A				A		A		A	・1年生を親切にリードする姿に成長を感じた。3年生の後ろ姿を見て来年度自分たちが主体となったときの構想を練っているようであった。	・特になし	・特になし		2 学年	
		球技大会		A			A	A		A		A	・各種目において一生懸命に取り組む姿が見られた。また、生徒会執行部を中心として運営にも尽力した。	・特になし	・特になし			
		体育大会		A			A			A		A	・応援合戦においては、よさこいを取り入れた斬新な趣向の演技を見せた。リーダーを中心に学年が一体となった充実した演技であった。	・特になし	・特になし			
		修学旅行	A	A	A	A		B	B	A		A	・フェリー欠航に伴い、前半の日程を中心に変更があった。教員、生徒とも動揺することなく変更後の行程に対応できた。	・交通手段不通などの非常事態に対する備えが不足していた。	・事前に代替案などを考えておく。			
		集団宿泊訓練	A	A	B	B		A	A	A	B	B	・集団宿泊訓練は盗難事件発生のため途中中止となった。2日目に予定されていた集団行動は後日学校で実施した。 ・新入生歓迎遠足では、上級生が新入生を上手にリードしてくれたので、各班ともに和やかな雰囲気ゲーム等を楽しんでいた。 ・体育大会では応援合戦において学年演技を行った。リーダーを中心に短期間の練習であったが完成度の高い演技を見せた。					1 学年
		新入生歓迎遠足		B					A	A		A	・1年4月の行事が多い。授業時数の確保が望まれる。 ・体育大会の日程が早く、準備期間が確保できない。また熱中症発生の懸念もある。	・集団宿泊訓練に至るまでのオリエンテーションもあり4月当初の学年行事が多い。1年当初の行事の精選や職員間のフォロー体制の構築、3月からの準備等の実施を行う。主任副主任2名での準備には限界がある。宿泊訓練の担当者を決めておくことも検討していただきたい。 ・体育大会については日程をどうしても後ろにずらせないのであれば、準備可能期間を前倒ししていただきたい。				
		体育大会		A			A		B	A		A						

ボランティア精神の滋養 奉仕活動に積極的に参加することで、ボランティア精神の滋養を図るとともに、地域との連携を深め、地域社会から信頼される生徒を育成する。	13	高齢者福祉施設への訪問、幼稚園児・小学生・中学生との交流、地域の祭・イベント参加などの「高校生ふるさと貢献・活性化事業」に積極的に取り組むことを通して、地域とともに歩む学校づくりを進め、地域との信頼関係を確立する。また地域の課題等の理解に努め、積極的に地域に関わり、地域への愛着や誇りを育む教育に取り組む。	ふるさと貢献活動 ふるさと活性化活動		B	A		A	B	A	・生徒会・運動部・文化部・ビジネス探究科の生徒を中心に、様々な活動を行った。通学路の清掃活動、地元社会福祉協議会・国際交流協会・商店街・老人福祉施設・近隣の小学校・幼稚園などとの交流、地域のイベント等への参加を通して、「地域の人とのつながりの再生」や「自治体や企業等との協働による地域貢献活動」など、有意義で充実した取り組みを行うことができた。	・地域との交流活動を、特定の運動部・文化部の活動から、学校全体の取り組みへと発展させるとともに、地域の多様な課題に対応した「ふるさと貢献・活性化」のあり方について再考する。	・地域との交流活動について積極的な情報収集を行い、関係団体との連携をより密にし、有効な実施計画を立てるとともに、連携団体の拡充を図る。 ・総合的な学習の時間「小野探究」を活用しながら、地域の課題についてより関心を高める。	総務
	14	学校周辺の清掃活動を実施することで、奉仕精神を高める。	クリーンキャンペーン	A		A			A	A	・年2回（6月・12月）に開催したが、200名を超える生徒が自主的に参加し、PTAと共に通学路をはじめ学校周辺の清掃活動を積極的に行うことができた。	・清掃箇所や内容をより充実させていきたい。 ・清掃箇所と生徒数がアンバランスでなかには時間を持て余す生徒がいた。	・清掃活動を行う範囲をもう少し広げるなど、より充実した活動となるように内容を見直す。 ・行内の美化活動も行う。	生徒指導
人権教育の充実 人間尊重の精神を涵養し、日常生活において人権を尊ぶ態度を育てる。自らを見つめ、よりよい生き方を追求できる人間を育成する。	15	職員の人権意識を高めるとともに、各学年の「生き方ホームルーム」を充実させる。	生き方H Rの実施	A		B			A	A	・本校独自の人権学習アンケートの実施結果をもとに、中学校での取り組み内容等から生徒の実態を把握できた。 ・学年ごとの学習テーマ（LGBTQなど）に沿って学年の人権教育担当者を中心に班別研修を計画・実施し、意見交換を行うことができた。 ・生徒の司会進行と討論形式の実施に生徒が主体的に取り組めた。	・「生き方ホームルーム」の実施にあたっては、学年の人権教育担当者に依存するところが大きい。	・部と学年が情報共有をしっかりと行う。 ・昨今の課題に対応した内容を実施する。	生徒指導
	16	海外の人々との交流を通して、文化や価値観の多様性を認識させるとともに、日本を再認識する機会とする。	オーストラリアの姉妹校Brentwood Secondary College、台湾、台中市のMingdao High School (明道中学)などとの交流	A		B		A	A	・オーストラリア国際交流事業の実施 令和6年9月9日（月）～9月19日（木）の11日間、ブレントウッド・セカンダリーカレッジ（本校姉妹校）の生徒13名が本校を訪問した。異文化理解を促し、国際貢献や平和に対する意識を高めるとともに、実用的な英語の運用能力を向上させることができた。 ・SSH海外研修の実施 令和6年12月13日（金）～17日（火）の5日間、科学探究科1年の生徒4名とビジネス探究科2年の生徒8名（いずれも希望者）がマレーシアにて研修を行った。熱帯多雨林の観察、テイラーズ大学での見学、現地企業研修などに取り組み、マレーシアの自然や現地企業の取組、大学での研究についての研修を行うことができた。探究活動の視点からの情報発信と異文化理解ができた。	・英語によるコミュニケーション力が低い生徒にはどのような研修が効果的なのか、現地プログラムの計画段階で検討が必要かもしれない。	・来年度は科学探究科とビジネス探究科が海外研修で協働して取り組む探究課題にはどのようなものがあるのか、具体的な現地プログラムを考えながら計画することが求められている。 ・英語によるコミュニケーション力の向上は平素の取組が重要であり、日常的に英語でのコミュニケーション力の育成を意識した授業やプログラムを実施したい。	SSH探究推進	
	17	生徒・保護者への教育相談の充実とともに、教職員にはカウンセリングマインド研修会を実施し、生徒に関する共通理解を図る。	カウンセリングマインド研修会 教育相談(年間24回) 学校保健委員会							・年間を通して、2名のスクールカウンセラーによる教育相談を実施し、保護者・学年・担任とも情報交換を丁寧に実施して、早期の対応ができるように努めた。	・年によって教育相談への依頼人数が変動する為、予定通りの相談内容が実施できない場合には、カウンセラーの先生方の協力を得て、従来の内容にこだわらずに教育相談を充実させていくプログラムを検討していきたい。	・生徒会の保健委員会への情報提供・共有を行い、生徒が自主的に保健活動に取り組むことにより、活動への理解を深め、積極的に取り組めるように指導していく。	保健	
	18	生徒に対し年3回、「いじめに関するアンケート」を実施し、いじめの早期発見・早期対応・未然防止に努める。								・アンケートの記述内容から生徒のいじめに対する考えを知ることができた。また、普段口に出して言えないような悩みを記入し、担任と話をする機会をつくることができた。	・生徒の「いじめはなくなる」「いじめられている方にも原因がある」などの意識を見直させる必要がある。 ・アンケート結果からだけではわからないことにも気をつけていかなければならない。 ・SNS等でのいじめに対しての対応策を講じる必要がある。	・今年度も実施したが、担任や部活顧問や学年団だけで対応するのではなく生徒指導部等連携をとって組織として対応していくことがこれまで以上に必要である。	生徒指導	
	19	いじめに対する職員研修を行い、全ての生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、「学校いじめ基本方針」の徹底と教員の共通認識を図り、チームとして問題に立ち向かう体制を整える。	いじめアンケート 人権研修会		A				A	A	・2学期はじめに職員研修を実施、いじめ案件の詳しい内容や対策についての説明と、これからの対応について協議することができた。 ・本校でのいじめ対応チームについて確認し、学校として教師間協力の大切さを再認識した。	・生徒指導部が中心となって研修を行ったが、専門家に講義をお願いしたい。 ・研修会だけではなく、定期的に情報共有する機会も必要ではないかと考える。	・組織的に計画し、研修することが大切であることを再認識した。それによって、研修内容、講師の依頼などを協議して決定することができた。また、部会での定期的な情報交換を実施する。	生徒指導

重点事項：地域に信頼される学校づくり

努力事項	No	具体的取り組み	具体的な行事等	自 己 評 価													主担当	
				評 価 （A:よく出来た B:出来た C:あまり出来なかった D:出来なかった） ※網掛け箇所記入する。														
				探究心	レジス エン	課題 解決 力	倫理 力	突進 力	発信 力	多 様 性	共 創 力	批判 的 思 考	総合評価	成 果	課 題	改 善 策 等		
情報発信の手段と内容の充実 公式ウェブサイト、学校公開等で最新の情報を保護者・地域住民等に発信し、理解と参画意識を醸成するとともに、地域に開かれた学校づくりを進める。	20	公式ウェブサイト及び学校・学科案内パンフレットを充実させるとともに、オープン・ハイスクールや学校公開の内容に創意工夫を加えていく。	オープン・ハイスクール							A		A	・学校案内や各種資料を準備し、中学校訪問、オープン・ハイスクール等の機会に中学生やその保護者に配布することで、本校の特色や魅力を発信することができた。 ・学校公開の機会に、文化的・体育的行事、オープン・ハイスクール、課題研究・探究発表会、PTAとの共催行事などを計画した。保護者をはじめ多くの来校者があり、生徒の活動の様子を実際に見聞してもらうことによって、本校の魅力を発信するという所期の目的が概ね達成できた。	・オープン・ハイスクールを含む学校公開の実施や学校案内の配布等は、中学生の進路決定に大きな影響力を持つことを再認識し、学校として職員・生徒共々一体となった効果的な取り組みが必要とされる。	・本校の教育環境の実態や生徒の活動の様子を公式ウェブサイトや学校・学科パンフレット、さらにオープン・ハイスクール等学校公開の場で、より一層効果的に発信できるように工夫する。 ・本校生徒の活動を前面に押し出し、生徒の意見やアイデア、中学校側の要望などを取り入れながら、さらなる充実を図るとともに、「スクールポリシー」をどのように効果的に発信するかを工夫する。	総務		
	21	中学校訪問やオープン・ハイスクール、中学校単位の学校説明会への参加などの機会を通して、中学生やその保護者、中学校教員等に対して、本校の特色・魅力を広く情報発信していく。	中学校訪問 オープン・ハイスクール							A		A	A	・学校案内や各種資料を中学校訪問やオープン・ハイスクール等の機会に中学生やその保護者に配布することで、本校の特色や魅力をより効果的に発信することができた。 ・オープン・ハイスクールでは、体験授業・実習・実験、在校生との交流会（座談会）、部活動見学等を通して、中学生に本校での生活について理解を深めてもらうとともに、本校生徒の主体性を最大限に生かすことで、中学生の理解を大いに手助けすることができた。	・北播地域の中学生生徒数の減少が続くなかで、旧北播学区以外への積極的な広報活動やPR活動を充実させること。 ・3学科で構成される本校の魅力とともに、それぞれの科の指導方針や教育活動の実態、進路実績などについて、より一層幅広いかつきめ細かな情報発信をすること。	・オープン・ハイスクールを含む学校公開をさらに魅力あるものにするための取り組みを工夫する。 ・中学校訪問の機会を通して、出身中学校生徒の学校生活の様子、進路状況なども伝え、情報交換をさらにすすめる。また、専門学科を含めて本校全体の指導方針や教育活動の実態、進路実績などについて、旧北播学区はもとより第3学区、さらには全県への情報発信をしている。	総務	
	22	「課題研究」では、実在する組織や人々との結びつきを強めた実践的活動に取り組み、研究の成果が誰かの手助けになる”社会貢献活動を中心とする。「創造探究」では専門の学会や外部の発表会に生徒を積極的に参加を促し、成果の情報発信と普及を行う。また、取組の成果を蜻蛉祭やオープン・ハイスクールなどで発表し、中学生や保護者など外部へ情報発信する。	蜻蛉祭 課題研究発表会 課題研究 創造探究 オープン・ハイスクール 小野サイエンス教室	A A						A A		B A	B A	・蜻蛉祭では、探究活動等の展示活動だけではなく連携企業の新商品試食会、商品販売などの実践的活動、調査活動を行うことが出来た。今までの学びの成果を確認するとともに、企画を実行するための行動力を養うだけでなく、協働することの必要性を理解する取り組みとなった。 ・本校webページの更新の頻度を高め、新しく魅力的な取組を継続的に発信することができた。 ・6月には探究成果発表会（77回生3年）、11月には理数探究中間発表会（78回生2年）を実施し、科学探究科の探究活動の成果を発表した。運営指導委員や教員などとの質疑応答を通して理解を深め、プレゼン力を向上させた。 ・小野サイエンス教室では、4つの自然科学系部活動すべてが小学生やその保護者を相手に科学の面白さを発信することができた。	・商品販売において、多くの来客によって行列ができて混雑する場面もあり、動線の確保が課題であった。 ・受検者数を増やすために、魅力ある科学探究科の取組づくりを進める必要がある。	・生徒指導部および生徒会執行部との連携をしっかりとるようにする。 ・科学探究科の生徒が探究活動の楽しさを感じながら取り組めるよう、課題やエントリーする大会数の見直しと管理を行う。 ・探究活動に関するノウハウの共有と見える化、指導教員の資質向上（研修・情報共有、共通理解）、メタ認知の活用などを検討する。	ビジネス 探究科 科学 探究科	
教職員の意識の高揚 学校公開の来校者アンケートや学校評価アンケートにより、課題を明確にして、教職員が各部署で改善に努める。	23	生徒・保護者・教員に対する学校評価アンケートを実施して自己点検を行い、日々の教育活動を活性化させる。												・次代を拓く”ONOPProgress”における～人間力を育む9つの力～から、教育活動を通して、生徒にどのような「力」の育成が期待できるかの目標を立て、その習得状況を具体的に段階的に評価することを継続した。 ・昨年度からの取り組み”ONOPProgress”、実施者が大きな負担を感じることがないよう、に、生き方HRの計画立案に必要な資料の収集や整理を行う。 ・グループ討議での生徒の発言をしっかりと掌握し、フォローする。	・昨年度からの取り組み”ONOPProgress”、実施者が大きな負担を感じることがないよう、に、生き方HRの計画立案に必要な資料の収集や整理を行う。 ・グループ討議での生徒の発言をしっかりと掌握し、フォローする。	・学校評価結果を各科、各部、学年等において検証し、来年度以降の教育活動の計画立案及び実施への改善に活かしていくことが不可欠であった。	学校評価	
	24	学期ごとに「生き方ホームルーム」の事前研修会を開き、効果的な授業方法の検討と人権意識の向上を図る。	生き方ホームルーム研修会		A							A	A	・人権教育に対する共通理解を回るため、各学年の人権教育担当者や専門部との連絡をとり、学年外の職員も含めて学年別の事前研修会をおこなった。意見交換を行い、学習内容について検討することができた。 ・事前研修会が必ずしも全員参加での実施ではなかった。次年度の計画立案に必要な資料の収集や整理を行う。 ・グループ討議での生徒の発言をしっかりと掌握し、フォローする。	・事前研修会が必ずしも全員参加での実施ではなかった。次年度の計画立案に必要な資料の収集や整理を行う。 ・グループ討議での生徒の発言をしっかりと掌握し、フォローする。	・年度末の職員研修会でこの一年の取り組みを共有し、次年度の計画立案をより改善できるようにする。 ・さまざまな思いや事情を抱えた生徒がいることへの気付きと配慮への気配りを心掛ける。	生徒指導 ・人権	

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

32	<p>「総合的な探究の時間」や「創造探究」において、サイエンスファシリテーターの活用や卒業生との連携、京都大学、神戸大学、兵庫教育大学や兵庫県立大学などとの高大連携により研究内容の充実を図る。</p>	<p>総合的な探究の時間 創造探究</p>	A		B	B		A				B	B	<p>・「創造探究」では課題設定、中間発表での振り返りと方向修正、成果発表など一連の取組の概要を理解することができた。探究心や粘り強く取り組む姿勢、プレゼンテーション能力などを育成することができた。</p> <p>・「総合的な探究の時間」では、昨年の取組を改善、発展させ、探究の能力と意欲を育成することができた。</p>	<p>・普通科の探究活動は、3年間を見通した指導計画を取りまとめ、学校全体で共有することが求められる。</p> <p>・科学探究科での取組の成果を普通科の活動にも反映させたい。</p>	<p>・教員の間の探究に関する方法の共有、3年間を通じた探究活動のスタンダードの作成などが求められる。</p>	<p>科学 探究科</p>
----	--	---------------------------	---	--	---	---	--	---	--	--	--	---	---	--	--	---	-------------------